

小学校 音楽

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

①目標の改善

- ・音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「(1)知識及び技能」、「(2)思考力、判断力、表現力等」、「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。
- ・資質・能力の育成に当たっては、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、学習活動に取り組めるようにする必要があることを示した。このことによって、児童が教科としての音楽を学ぶ意味を明確にした。
- ・音楽科では、この目標を実現することによって、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わることのできる人を育てること、そのことによって心豊かな生活を営むことのできる人を育てること、ひいては、心豊かな生活を営むことのできる社会の実現に寄与することを目指すしている。

②音楽科において育成を目指す資質・能力

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについての理解、音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通して理解 など ・自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能 など | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力 など ・音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、知識を得たり活用したりして、楽曲や演奏のよさなどを考え味わい、自分にとっての音楽のよさなどを見いだす力 など | <ul style="list-style-type: none"> ・リズム感、旋律感など音楽の特性を感じ取る感性 ・協働して音楽活動する喜びの実感 ・音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・音楽を愛好する心情 ・生活の中の様々な音や音楽への気付き ・音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度 ・我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にしている態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など |

※下線部は、「共通事項」と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図った。
- ◇音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める学習の充実を図った。
- ◇我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図った。

②見方・考え方について

- ◇音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」である。
- ◇音楽的な見方・考え方は、音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。

見方・考え方が働いているかどうか、「深い学び」の鍵となります。



③内容の構成

| 内容の構成 | | |
|--------|---|--|
| 領域 | 項目 | 事項 |
| A表現 | (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 歌唱分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 歌唱分野における「知識」 ウ 歌唱分野における「技能」 |
| | (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 器楽分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 器楽分野における「知識」 ウ 器楽分野における「技能」 |
| | (3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 音楽づくり分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 音楽づくり分野における「知識」 ウ 音楽づくり分野における「技能」 |
| B鑑賞 | (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 鑑賞領域における「思考力、判断力、表現力等」 イ 鑑賞領域における「知識」 |
| [共通事項] | (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「思考力、判断力、表現力等」 イ 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる「知識」 |

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の各事項の指導と併せて、十分な指導を行うことが大切です。児童の発達段階や指導のねらいに応じて、その都度繰り返し指導し、6年間を見通した学習を進めていきます。



〔共通事項〕のくわしい内容は以下のとおりです。
 ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えること。(思考力、判断力、表現力等)
 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。(知識)

④主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- ◇ 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。
- ◇ 音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。
- ◇ 音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽を聴いて感じ取ったことや想像したことなどを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。

| | |
|----------------|--|
| 「主体的な学び」の視点(例) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かす活動を取り入れるなどして、児童が音楽のよさなどを感じ取れるようにし、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付かせているか。 ・ イメージや気持ちの変化を喚起させる要因となった音楽的な特徴に気付かせ、表したい音楽表現や音楽のよさなどを見いだし見通しをもたせているか。 ・ 工夫して音楽で表現したり、音楽のよさなどを見いだし味わって聴いたりする過程でもったイメージや気持ちの変化を振り返り、音や音楽が自分の気持ちにどのような影響を及ぼしたのかを考えさせ、学んでいること、学んだことの意味や価値に気付かせているか。 |
| 「対話的な学び」の視点(例) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。 ・ 他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりする過程において、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに交流し、音楽の構造について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動を取り入れているか。 |
| 「深い学び」の視点(例) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が音や音楽に出会う場面を大切に、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、一人一人が音楽と主体的に関わる中で、聴き取ったことや感じ取ったことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、音楽との一体感を味わったり、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付け、思考・判断を促しているか。 ・ 表現領域の学習では、思考、判断の過程との関連を図りながら、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにしているか。 |

(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

目標に準拠した評価を行うために、音楽科の目標を踏まえて作成されています。



| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 | <p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p> | <p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

② 学習指導要領の「2 内容」と「内容のまとめりごとの評価規準」との関係

〈例 第1学年及び第2学年「A表現」(1)歌唱の活動 及び〔共通事項〕(1)〉

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|--|---|
| <p>イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて<u>気付くこと</u>。</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて<u>理解すること</u>。</p> <p>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を<u>身に付けること</u>。</p> <p>(ア) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能</p> <p>(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能</p> <p>(ウ) 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> | <p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いを<u>もつこと</u>。</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて<u>考えること</u>。</p> | <p>※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、当該学年目標(3)を参考にする。</p> |

「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものです。

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力です。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <p>・事項にある「次の(ア)及び(イ)」や「次の(ア)から(ウ)まで」の部分は、「(ア)から(ウ)までの事項のうち、いずれかを選択して置き換え作成する。等</p> | <p>・〔共通事項〕アの文末を「～考え、」と変更し、その後に扱う領域や分野の事項アを組み合わせ、文末を「～している。」と変更して作成する。等</p> | <p>・当該学年の「評価の観点の趣旨」の内容を踏まえて作成する。</p> <p>・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」より選択して置き換える。等</p> |

「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を、「内容のまとめりごとの評価規準」と呼びます。

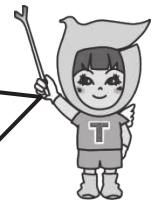
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <p>・曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて<u>気付いている</u>。</p> <p>・思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能を<u>身に付けている</u>。</p> <p>・思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を<u>身に付けている</u>。</p> <p>・思いに合った表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を<u>身に付けている</u>。</p> | <p>・音楽を形づくっている要素を<u>聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え</u>、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いを<u>もっている</u>。</p> | <p>・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

下線部は〔共通事項〕ア

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、学習評価を行う際の評価規準を作成します。そして、学習状況の評価を実施し、具体的な学習や指導の改善に生かします。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

適宜、〔共通事項〕を要として、各領域や分野の関連を図った指導計画を工夫することにより、学習が充実します。また、表現及び鑑賞の学習の中で、児童が音楽に対する感性を働かせ、「音楽を形づくっている要素」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えるようにし、そのことを表現及び鑑賞の各活動に生かすよう十分な指導を行うことが大切です。指導に当たっては、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、効果的な指導の手立てを工夫することが重要です。



(1) 題材名「曲想を味わおう」(全7時間)(第6学年)

(2) 題材のねらい

- 「広い空の下で」と「風を切って」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。
- 旋律、強弱、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
- 「ハンガリー舞曲 第5番」の旋律、強弱、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。
- 曲の特徴にふさわしい表現を工夫したり、味わって聴いたりする学習に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、うたや楽器に親しむ。

本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素

旋律、強弱、
音の重なり、速度

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択することが大切です。



(3) 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| <p>①[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>②[知] 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。(歌唱、鑑賞、器楽)</p> <p>③[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p> | <p>思① 旋律、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p> <p>思② 旋律、強弱、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思③ 旋律、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p> | <p>態① 曲の特徴にふさわしい表現を工夫したり、味わって聴いたりする学習に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、鑑賞、器楽)</p> |

(4) 題材の指導計画

※ 丸数字…全員の学習状況を記録に残す場面

| 次 | 時 | ◎ねらい ○主な学習活動 | 知・技 | 思 | 態 |
|-----|---------------|---|------|------|---|
| 第一次 | 第1 ～ 3時 | ◎歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫し、思いや意図をもって「広い空の下で」を歌う。 | | | |
| | | ○歌詞を読んだり範唱を聴いたりして曲の特徴を捉える。 ○歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ○曲全体の構成を考え、歌詞の内容や曲想を生かして歌う。 | ①[技] | ②[知] | ① |
| 第二次 | 第4時 | ◎音楽を形づくっている要素のかかわり合いが生み出す曲想の変化を感じ取りながら、「ハンガリー舞曲 第5番」を味わって聴く。 | | | |
| | | ○旋律の反復や変化に気を付けて聴く。 ○速度や強弱、旋律の変化が生み出す曲想を感じ取って聴く。 | | ②[知] | ② |
| 第三次 | 第5 ～ 7時 | ◎旋律の反復や曲想の変化などの特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって「風を切って」を演奏する。 | | | |
| | | ○楽曲全体の感じをつかんで歌詞唱する。 ○各パートの特徴や役割を考え、楽器を選んで演奏する。 ○曲想にふさわしい表現を工夫し、合奏する。 | ③[技] | ②[知] | ③ |

(5) 授業展開例 (本時 2 / 7 時間)

①本時の目標 旋律の音の動きや重なりを意識しながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現の仕方について、思いや意図をもつ。

②学習の展開

| 学習活動 | ○主な発問・予想される児童の反応 | ・支援 ◆評価 ※手立て |
|---|--|---|
| <p>1 前時の学習を振り返り、「広い空の下で」を歌い、本時のめあてを確認する。</p> | <p>○歌詞の内容を思い描きながら、気持ちをこめて歌おう。 ・友達との出会いは宝物だな。 ・友達といっしょにいる喜びが感じられるよ。</p> | <p>・歌詞に込められた意味を考えながら歌うことによって、本時のねらいへの方向付けを行う。</p> |
| <p>【10の視点】 ①魅力的な課題・教材の提示</p> | <p>児童にとって親しみやすい内容の歌詞や旋律の教材を選ぶことで、学習への意欲を高め、主体的な学びにつなげています。</p> | <p>歌詞の内容も曲想を生み出す重要な要素となっていることを児童自らが理解するように指導することが大切です。</p> |
| <p>歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫しよう。</p> | | |
| <p>2 歌詞の内容や曲想を生かした表現の工夫をグループで考える。 ・それぞれが考えた工夫を伝え合う。</p> | <p>○歌詞の内容や曲想を生かした表現にするには、どんな工夫があるとよいだろう。 ・旋律がなめらかに動く前半部分は、ゆったりとした気持ちで柔らかい声を出すといいと思う。 ・さわやかであたたかい歌詞だから、表情も明るく歌いたいな。 ・「すてきなドラマ」に向かって旋律が盛り上がっているから、だんだん強く歌ったらどうかな。</p> | <p>・前時に見つけた旋律の音の動きや重なり方に注目して考えるよう助言する。 ・曲の山の「すてきなドラマ」に向かって、どのように歌いたいかを考えるようにする。また、なぜそう考えたのか理由も伝えることを確認する。 ・前時話し合った曲にこめられた思いも大切にしよう助言する。</p> |
| <p>【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実</p> | <p>客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、学習を深めていく対話的な学びが重要です。ここでは特に曲想、歌詞、旋律、強弱、音の重なりをよりどころとして、前時の学習を生かして考えるよう指導を工夫しています。</p> | |
| <p>・歌で確かめながらグループの表現を仕上げていく。</p> | <p>・上と下のパートに分かれるところで、それぞれがもっと息をそろえて出だしをはっきりさせた方が、盛り上がりやすいと思うよ。試してみようよ。</p> | <p>・話し合いに終始せず歌って確かめながら考えるよう助言する。</p> |
| <p>【10の視点】 ②体系的な学習の充実</p> | <p>個別の知識の習得や技能の機械的な訓練にならないよう、音楽活動を通して学ぶことが大切です。</p> | |
| <p>3 グループで伝え合ったことを全体で共有し、学習のまとめをする。 ・共有した表現の工夫を取り入れて、1番を歌う。</p> | <p>○考えた工夫を伝え合い、歌詞の内容や曲想を生かしたものになっているか意識して歌おう。 ・音が高くなっていく後半を段階的に強くしたことで、歌詞の意味もはっきりと伝わって、大きな喜びが感じられるなあ。 ・それぞれのパートの出だしの息をそろえるという工夫と、言葉をはっきりさせるという工夫を合わせたら、気持ちをのせて歌いやすくなったよ。</p> | <p>◆旋律、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。☞①(演奏聴取、発言内容、ワークシート) ※旋律の音の動きの変化や重なり方のちがいが分かるように、掲示物を確認する。</p> |
| <p>一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽を形づくっている要素の働きを捉え、表したい音楽のイメージを膨らませながら、どのように表現するかについて自分の考えをもって意見交換したり、実際に表現したりして、思いや意図をもてるようにしています。</p> | | |
| <p>【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実</p> | <p>どのような意図で工夫したのかを伝え合うだけでなく、全員で歌って試すことによって、どのように歌うかについての思いや意図を膨らませる。 ・考えた工夫が歌詞の内容や曲想にふさわしいかどうかを感じ取りながら歌うように助言する。 ・次時は、最後の「ともに歌おう」をどのように歌いたいか考え、完成させることを予告する。</p> | |

中学校 音楽

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

① 目標の改善

- 音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定し、「(1)知識及び技能」、「(2)思考力、判断力、表現力等」、「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。
- 資質・能力の育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要があることを示すことによって、教科としての音楽を学ぶ意味を一層明確にした。

② 音楽科において育成を目指す資質・能力

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号など</u>について、<u>音楽における働きと関わらせて理解すること</u> など 自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けること など | <ul style="list-style-type: none"> 音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気</u>を感受しながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図を生み出すこと など 音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気</u>を感受しながら、知識を得たり活用したりして、音楽を自分なりに解釈したり、音楽と人々の暮らしなどとの関連から音楽を捉えたり、自分にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を生み出すこと など | <ul style="list-style-type: none"> 音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性 協働して音楽活動する喜びの自覚 音楽の学習に主体的に取り組む態度 音楽を愛好する心情 音環境への関心 音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度 我が国の音楽文化への愛着や、諸外国の様々な音楽に関わる態度 美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など |

※下線部は、「共通事項」と関連する箇所

(2) 実施上のポイント

① 改訂のポイント

- ◇感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容の改善を図った。
- ◇音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習の充実を図った。
- ◇我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、指導の充実を図った。

② 見方・考え方について

- ◇音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」である。
- ◇音楽的な見方・考え方は、音楽科の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方であり、音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。

見方・考え方が働いているかどうか、「深い学び」の鍵となります。



③内容の構成

| 内容の構成 | | |
|---------|--|--|
| 領域 | 項目 | 事項 |
| A 表現 | (1)歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 歌唱分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 歌唱分野における「知識」 ウ 歌唱分野における「技能」 |
| | (2)器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 器楽分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 器楽分野における「知識」 ウ 器楽分野における「技能」 |
| | (3)創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 創作分野における「思考力、判断力、表現力等」 イ 創作分野における「知識」 ウ 創作分野における「技能」 |
| B 鑑賞 | (1)鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 鑑賞領域における「思考力、判断力、表現力等」 イ 鑑賞領域における「知識」 |
| (共通事項) | (1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 | ア 表現及び鑑賞の学習において共通に必要な「思考力、判断力、表現力等」 イ 表現及び鑑賞の学習において共通に必要な「知識」 |

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して指導することが大切です。歌唱や鑑賞の学習のみに偏ったり、特定の曲種の学習に偏ったりしないように留意しましょう。

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動と切り離して単独で指導するものではないことに、十分留意する必要があります。



〔共通事項〕の内容は以下のとおりです。

- ア 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、その関わりについて考える、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力
- イ 用語や記号などを理解する、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な「知識」に関する資質・能力

④主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- ◇題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。
- ◇音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。
- ◇音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。

| | |
|----------------|--|
| 「主体的な学び」の視点(例) | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させ、その要因となった音楽的な特徴を探ったり、楽曲の背景との関わりを考えたりさせ、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見いだすことに関する見通しをもたせているか。 ・音楽で表現したり、聴いたりする過程でもったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えさせ、学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚させているか。 |
| 「対話的な学び」の視点(例) | <ul style="list-style-type: none"> ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。 ・一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする学習となっているか。 |
| 「深い学び」の視点(例) | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わり、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、音楽を形づくっている要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感する活動を適切に位置付け、思考・判断を促し、深めているか。 ・表現領域の学習では、思考・判断の過程との関連を図りながら、自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を習得・活用できるようにしているか。 |

⑤移行措置について

- ◇平成30年度から令和2年度までの第1学年から第3学年までの音楽の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第5節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第5節の規定によることができる。

(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

目標に準拠した評価を行うために、音楽科の目標を踏まえて作成されています。



| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 | <p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p> | <p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

② 「2 内容」と「内容のまとめりごとの評価規準」との関係

＜例 第1学年「A表現」(1)歌唱の活動 及び〔共通事項〕(1)＞

| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|---|
| <p>イ 次の(ア)及び(イ)について<u>理解すること</u>。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり</p> <p>(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて<u>理解すること</u>。</p> <p>ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を<u>身に付けること</u>。</p> <p>(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能</p> | <p>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を<u>創意工夫すること</u>。</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて<u>考えること</u>。</p> | <p>※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、当該学年の目標(3)を参考にする。</p> <p>〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力です。</p> |

「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものです。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <p>・事項イ及び事項ウの「次の(ア)及び(イ)」の部分に、学習内容等に応じて(ア)、(イ)のいずれか又は両方を適切に選択して置き換え、文末を「～している」に変更する。</p> | <p>・〔共通事項〕アの文末を「考え、」に変更して文頭に置き、事項アの文末を「～している」に変更する。等</p> | <p>・当該学年の「評価の観点の趣旨」に基づいて作成する。</p> <p>・「表現及び鑑賞」の部分は、学習内容に応じて、該当する領域や分野に置き換える。なお、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。等</p> |

「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を、「内容のまとめりごとの評価規準」と呼びます。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| <p>・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて<u>理解している</u>。</p> <p>・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて<u>理解している</u>。</p> <p>・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を<u>身に付けている</u>。</p> <p>・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を<u>身に付けている</u>。</p> | <p>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて<u>考え</u>、歌唱表現を<u>創意工夫している</u>。</p> | <p>・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

下線部は〔共通事項〕ア

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、学習評価を行う際の評価規準を作成します。そして、学習状況の評価を実施し、具体的な学習や指導の改善に生かします。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

教科及び学年の目標を実現していくためには、必要に応じて〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図った指導計画を作成するようにします。各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮することが大切です。指導に当たっては、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることができるような場面設定や発問など、効果的な手立てを講ずる必要があります。



(1) 題材名「箏の音色や音階の特徴を生かして、日本のよさを伝える旋律をつくろう」(全5時間)(第2学年)

(2) 題材のねらい

- 「さくら」「荒城の月」の楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法などの技能を身に付ける。
- 音階の特徴について表したいイメージとかかわらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- 「さくら」「荒城の月」の音色、音階、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫したり、まとまりのある創作表現を創意工夫する。
- 箏の音色や音階の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や創作の学習活動に取り組むとともに、我が国の音楽や音楽文化に親しむ。

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素

音色、音階、旋律

生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択することが大切です。



(3) 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| 知 箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。(器楽) 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法などの技能を身に付け、器楽で表している。(器楽) 知 音階の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。(創作) 技 創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。(創作) | 思 音色、音階、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽) 思 音色、音階、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(創作) | 態 日本のよさを伝えるための旋律をつくる学習に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や創作の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・創作) |

(4) 題材の指導計画

| 次 | 時 | ◎ねらい ○主な学習活動 | 知・技 | 思 | 態 |
|-----|-------|--|-------|-------|-------|
| 第一次 | 第1・2時 | ◎箏の音色や音階を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、音色や奏法との関わりについて理解する。 | | | |
| | | ◎創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法を身に付けて演奏する。 ○箏の音色や雰囲気を感じ取って「さくら」を演奏する。 ○「荒城の月」を歌いながら演奏する。 ○箏の読譜に慣れる。 | 技(器楽) | 知(器楽) | 思(器楽) |
| 第二次 | 第3・4時 | ◎箏の音色や音階などの特徴を生かし、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。 | | | |
| | | ○平調子の音階や箏の音色からイメージを膨らませ、日本のよさを伝えるテーマを決める。 ○箏の音色や音階の特徴を生かして日本のよさを伝える旋律を演奏し、それぞれの旋律のよさやアドバイスを伝え合う。 | 知(創作) | 思(創作) | ↓ |
| 第二次 | 第5時 | ◎平調子の音階や箏の音色から喚起されたイメージをもとに、平調子の音階や箏の音色の特徴を生かした音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。 | | | |
| | | ○日本のよさを伝えるための各グループのテーマに沿った、まとまりのある旋律をつくる。 | 技(創作) | | 態 |

(5) 授業展開例 (本時4 / 5時間)

①本時の目標 箏の音色や音階などの特徴を生かし、まとまりのある創作表現としてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

②学習の展開

| 学習活動 | ○主な発問 ・予想される生徒の反応 | ・留意点 ◆評価 ※手立て |
|---|---|--|
| <p>1 二人組で交代しながら既習曲を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら」 ・「荒城の月」 | <p>○どんなことに気をつけると、箏の音色を生かした表現になるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色を響かせるために、姿勢や手の構えに気を付けよう。 ・手の構えがきれいだったよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・箏の基本的な奏法を確認するために、模範的な手の構えや姿勢をテレビで映したり、よい生徒を紹介したりする。 ・ペアで感想を伝え合うなど、常に協働的な学びを意識する。 |
| <p>箏の音色や音階の特徴を生かして、日本のよさを伝える旋律を工夫してつくろう。</p> | | |
| <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【10の視点】 ②体験的な学習の充実</p> </div> | <p>○日本のよさのイメージにふさわしい音楽表現になっているか、確かめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静けさを出すためにゆっくりとした速さで演奏しよう。 ・反復と強弱の緩やかな変化によって穏やかな景色が伝わるようにしよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点をグループで確認してから、テーマのイメージにふさわしい音楽表現になっているか、実際に演奏して確かめるよう助言する。 |
| <p>実際に音を出すことを通して、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素について知覚・感受できるようにすることが大切です。</p> | | |
| <p>3 班ごとにつくった作品を発表し、意見交換する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【10の視点】 ④思考の整理 ⑤説明・発表の機会の充実</p> </div> | <p>○箏の音色や音階の特徴を生かして、イメージが伝わるように発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和の雰囲気を出すためにテンポを遅くしたり、長い音を使ったりしてゆったりした感じが出るようにした。 ・花火がはじけるイメージを出すために跳躍進行や高い音を使って、楽しい雰囲気にした。 ○各班の演奏を聴き、感じたことをワークシートにまとめて発表しよう。 ・反復が使われていたので旋律が印象に残った。 ・強弱の変化で、盛り上がる感じがした。奏法も変えていた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や工夫した点を拡大掲示することで、旋律や班員の思いを視覚化し、全員で工夫点を共有できるようにする。 ・音楽を形づくっている要素と曲想、奏法の関わりに気付くことができるよう板書で整理する。 ・「音楽の素(音楽を形づくっている要素)」を掲示し、要素を意識させておく。 |
| <p>生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて聴いて気付いたことを、音楽的な特徴に関わることと曲想に関わることに分けて板書し、全体で共有しながら相互の関わりについて考えたり、これらに関わる新たな知識・技能や楽器に関わる新たな知識・技能を得たり、これらと考えたこととを関連付けたり組み合わせたりすることが大切です。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・テンポがゆったりとしていてテーマのイメージとよく合っていた。最後の音程を変えるとまとまると思う。 ・順次進行が使われていたのでだんだん盛り上がる感じが伝わってきた。より響くように奏法を工夫すると、もっとイメージが伝わると思う。 ・長く低い音をたくさん使って余韻を楽しむようにしているから、お寺の鐘のイメージに合っている。箏の音色の美しさも生かされているな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・再度演奏を聴くことによって、実感を伴った話し合いにする。 ◆音色、音階、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。☞(観察、発言、ワークシート) ※平調子の音階や箏の音色の特徴などについて着目できるよう、板書や「音楽の素」の掲示を手がかりにするよう助言する。 |
| <p>生徒一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて知覚・感受したことを言葉で表したり比較したり関連付けたりする学習過程を行き来しながら、音楽を形づくっている要素の働きを捉え、その働きと自分の感情の変化との関わりについて根拠をもって意見交換し、器楽表現に対する思いや意図をもてるようにすることが、深い学びにつながります。</p> | | |
| <p>4 本時の学習のまとめをする。</p> | <p>○箏の音色や音階の特徴などを生かした旋律の工夫によって、イメージが伝わるようになったか振り返ろう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・グループのテーマに沿って旋律をさらに工夫していくことを伝え、次時の見通しをもたせる。 |